

AIDS UPDATE

No.118 2016.1.25

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351
中四国エイズセンターホームページ URL:www.aids-chushi.or.jp

◆研修会報告

■第11回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ネットワーク会議研修会報告 ソーシャルワーカー 金崎慶大

10月24～25日に「第11回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ネットワーク会議、研修会」が開催され、取りまとめ、司会役として参加させて頂きました。今年、プログラムの構成、開催地（岡山県初）を例年と変更しての開催で、参加者も2日間で30名を超え、HIV拠点病院からだけでなく一般の関係機関からの参加もありました。

【1日目】

講義①「HIV感染症の基礎知識」

講師 藤井輝久(広島大学病院 エイズ医療対策室長)

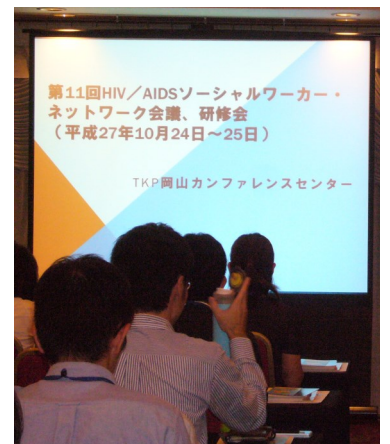
講義②「初歩的な制度の説明、ならびに現場の経験を通じて、MSWの役割について思うこと」

講師 田中透先生(県立広島病院 地域連携センター 地域連携・社会相談室)

講義③「NPO法人での活動とそこから見えてくること～就労支援の視点から～」

講師 生島嗣先生(特定非営利活動法人 ふれいす東京)

会議① 拠点病院ソーシャルワーカー会議



【2日目】

事例検討①②

発表者 武内宏憲先生(川崎医科大学附属病院 医療福祉相談室)

発表者 木梨貴博先生(福山医療センター 地域医療連携室)

1日目は、当院エイズ医療対策室室長の藤井先生からのHIV感染症の基礎知識、県立広島病院のソーシャルワーカー田中先生からの制度利用にあたってのMSWの役割、ふれいす東京代表の生島先生からのNPO法人での活動の講義がありました。基礎的な知識から具体的な関わり方まで幅広いプログラム内容となっており、初めて研修会に参加した方にとっても分かりやすい内容だったのではないかと思います。私自身も日々の業務や患者との関わりの中で不透明だった部分が解消されました。

ネットワーク会議では、各病院の活動状況や課題など様々な報告がありました。病院や地域差によって状況や課題の違いはありましたが、ソーシャルワーカーとして共感できる内容のものばかりでした。今回は、時間の関係で共有のみで終わってしまったのですが、来年はじっくり検討する時間を持てればと思います。



2日目は、2症例を6グループに分かれて事例検討しました。講師の方々の発表にも熱が入っていたのが印象的でした。参加者の方々もはじめは遠慮がちでしたが、日々の経験を基に討議に参加されており、徐々に話がヒートアップしていました。いわゆる困難ケースと言われる事例検討でしたが、参加者の方々が真剣に悩んでいる姿や実直な言葉を聞くことができ、参加者全員で多くのことが共有できたのではないかと思います。

今回の研修会では、改めて気付かされることや新たな発見が多くありました。参加者の方々からも同じような感想も聞かれており、改めてこういった場での情報共有やソーシャルワーカー同士が繋がることの重要性を再確認できた研修会となりました。今後もより良い研修会が開催できたらと思います。

■「第6回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議 歯科衛生士 松井加奈子

2015年11月1日(日)今年で6回目となる歯科診療体制構築のための研究会議は、歯科医師・歯科衛生士合わせて53名が参加し、初の県外！岡山コンベンションセンターで開催されました。

講義①「口の中から見えるHIV感染症」

講師 矢嶋敬史郎先生(国立病院機構大阪医療センター 感染症内科)

講義②「歯科への期待のメッセージ」

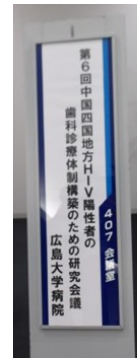
講師 花井十伍氏(特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権 理事
大阪HIV薬害訴訟原告団 代表)

話題提供「北陸3県のHIV歯科診療体制の活動状況について」

講師 宮田勝先生(石川県立中央病院 歯科口腔外科)

会議① 議題「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」

司会 栗原英見(広島大学病院主席副病院長)



はじめに、輸血部長・エイズ医療対策室長の藤井先生に開会挨拶をしていただき、大阪医療センター矢嶋敬史郎先生をはじめ、花井十伍氏、話題提供として石川県立中央病院歯科口腔外科の宮田勝先生から「北陸3県のHIV歯科診療体制の活動状況について」をご講演いただきました。

矢嶋先生の講演は「口の中から見えるHIV感染症」と題して、概論から始まり講義後半には症例写真を交えた質問形式で、HIV/AIDSの事がとても理解しやすい内容の講義でした。その中で、HIV/AIDS関連疾患であるカポジ肉腫などの悪性腫瘍についても紹介されていました。本院歯科ではそのような症例がなく、大都市におけるHIV感染者の多さを物語るに、未受診のまま経過したHIV感染症の恐ろしさを感じました。ARTの普及によって慢性疾患に位置づけられているHIV感染者の歯科治療は大きく変化し、現在は虫歯や歯周病治療がメインになってきています。実際、私自身も口腔症状をみて、HIV感染と結びつけることができるのか、疑問が残ります。



今年の研究会議でも、講師あるいは出席者の先生方から様々な意見をいただきましたが、とりわけ花井十伍氏の「歯科への期待のメッセージ」は患者目線での講義であり、日頃患者がどのように感じているか、知ることのできる良い機会だったと思います。マスメディアに取り上げられないだけで未だに診療拒否などが起こっているのも事実だと思います。

それぞれ施設ごとに、いろいろな意見や考え方がありますが、この研究会議を通じて、病院内のみならず医療施設間で連携を図りながら、HIV/AIDSに関する正しい知識を深め、HIV歯科医療体制を構築していくことが重要であると考えます。さらに、安全な歯科医療を提供するために標準予防策を徹底することで、今後の歯科医療全体の質の向上に繋がると感じました。



今年で6回目を迎えるこの研究会議ですが、中国四国地方の歯科医療体制構築は、この6年の間に一步一步、確実に進んできていると感じました。北陸3県でHIV歯科診療体制の構築に力を入れている宮田先生同様に、さらなる進歩を目指して、HIV感染者のQOL向上に貢献したい、と再認識しました。



■平成27年度HIV/AIDSケアセミナーの報告 ～地域におけるHIV/AIDS診療 尾道編～

エイズ医療対策室 看護師 城下由衣



11月21日(土)に「平成27年度HIV/AIDSケアセミナー」が開催されました。今年は、例年と雰囲気を変えて、尾道市、尾道市医師会と共催、対象を介護施設・障害者施設・在宅・療養・緩和ケア・クリニック全職種としました。このような試みは初めてだったので、参加者が集まるか不安でしたが、次々と申し込みをいただき、医師、薬剤師、看護師、准看護師、社会福祉士、介護士、栄養士、理学療法士、作業療法士、心理士、ヘルパー、ケアマネージャー、クラーク、音楽療法士、合計86名の方にご応募いただき大変賑わいました。

講義①「HIV/AIDS基礎知識」

講師 坂田達朗先生(国立病院機構福山医療センター 副病院長)

講義②「社会制度の利用」

講師 金崎慶大(広島大学病院 エイズ医療対策室 社会福祉士)

講義③「患者の心理とその支援」

講師 飯塚暁子先生(国立病院機構福山医療センター 臨床心理士)

講義④「血液曝露予防とHIV看護」

講師 小川良子(広島大学病院 看護部 HIVコーディネーターナース)

事例紹介「HIV感染者への支援の実際」

講師: 大山紗よ子先生(福山国立病院機構福山医療センター 看護師)
木梨貴博先生(福山国立病院機構福山医療センター 社会福祉士)
山根暁子先生(ファーマシーさんて薬局 薬剤師)
講師: 金崎慶大(広島大学病院 エイズ医療対策室 社会福祉士)
福岡元子先生(生協ひろしま 介護支援専門員)



まず、国立病院機構福山医療センター副院長、坂田先生にHIV/AIDSの基礎知識、広島や日本におけるHIV/AIDSの現状、福山医療センターでのHIV/AIDS診療についてお話しいただきました。その中でも最後に言われていた「検査を受ける、勧めることは、患者にとって「メリットしかない!」」という言葉がとても印象的でした。

次に、当院の社会福祉士、金崎さんから、実際の相談支援の内容を交えながら、活用できる社会制度について講義を受け、「プライバシー、障害受容に対する配慮」「最新で適切な情報をクライアントへ提供する」「理解しようとする姿勢」が大切であることを学びました。

国立病院機構福山医療センター臨床心理士の飯塚暁子先生からは、患者の心理とその支援について講義をいただき、HIV感染者の心理やセクシュアリティの多様性を理解すること、血友病のHIV感染者の心理を学ぶことができました。

当院看護師小川さんは、司会から講師の席へ可憐に移動され、血液曝露予防とHIV看護について講義してくださいました。院内だけではなく、在宅療養における感染対策や看護についての内容もあり、HIVの高齢化が進んでいる現在の流れに沿った地域医療を考えるきっかけとなりました。

最後は事例を2つ紹介していただきました。1事例目は、看護師と社会福祉士、薬剤師が連携し合い、地域での支援を行っている方の事例でした。2事例目は、社会福祉士と介護支援専門員との実際の話しを再現するような掛け合いでの発表で、キーパーソン不在患者に対する在宅復帰支援を話してくださいました。

参加者の中には、実際に所属施設でHIV患者の受け入れが認められず、悔しい思いをされてこの研修会に臨まれた方もおられました。HIVへの間違った知識や偏見がまだまだ蔓延っている昨今、このように苦い経験をバネに研修会に参加して下さる方がいらっしゃることに私自身心を打たれました。しかし、医学の進歩は人の受け入れよりも速いスピードで進んでいます。HIVを1日1回1錠の内服でコントロールできるようになった今、課題となってくるのは、やはり地域で見ていくということです。HIV/AIDSに関心のある方々の輪を広げて、地域でのHIV/AIDS診療が当たり前となる世の中を作りたいと思います。



■平成27年度 広島大学病院エイズ研修会報告 ～多数のご参加をいただき、有り難うございました～

12月7日（月）に広島大学病院エイズ研修会が開催されました。今回は、しらかば診療所より井戸田一郎先生をお招きし、「HIVとSTD」についてご講義いただきました。

<プログラム>

- 講演1「本院のHIV感染症患者の現状について」
齊藤誠司(広島大学病院 輸血部 助教)
- 講演2「HIVとSTD」
井戸田一郎先生(しらかば診療所 院長)



平成27年度
広島大学病院 エイズ研修会

講演1「本院のHIV感染症患者の現状について」
齊藤 誠司(広島大学病院 輸血部 助教)

講演2「HIVとSTD」
井戸田 一郎先生(しらかば診療所 院長)

【講師経歴】
1995年 岐阜大学医学部卒
その後、東京都立駒込病院内科レジデントを経て、東京女子医科大学感染症科にて感染症診療・研究・教育に従事。
2003年-2005年、WHO(世界保健機関)南太平洋事務所で性病対策専門家として出向し、南太平洋15ヶ国における結核・感染症対策に従事。
2007年、性的少数者を主な対象とする日本初の診療所「しらかば診療所」を開設。

今年度の研修会には院内・院外から、医師・歯科医師・薬剤師・看護師の方々56名に参加していただきました。口演2の題名が「STD:性行為感染症」であり、大学病院とは縁が薄い疾患なので、参加人数は少ないのではないかと当初の期待を裏切り、準備していた座席が埋まるほどでした。

まずは、齊藤先生に“本院”だけでなく、“広島県内や中国四国地方”のHIV感染症の現状について、ご報告いただきました。広島県内では、“無症候性”であるHIV感染者よりも“エイズ発病”後に診断される例が多いことが示され、現状に対する警鐘を鳴らすと“早期発見”の重要性をお示しいただきました。



井戸田先生の講演は、ご自身の経歴や現在の「しらかば診療所」における診療の紹介から始まり、「MSM (Man who has sex with men: 男性と性行為をしたことがある男性) は、どのくらいの比率でいるのか?」、また「MSMで注意すべき性感染症」として、梅毒、ケジラミ、B型肝炎など、を時折笑いを交えながら、わかりやすくお話いただきました。「局部の写真がばんばん出ますからご注意ください!」とおっしゃっていましたが、陰部のみならず口腔内の写真もたくさんあり、歯科のスタッフの方にも飽きさせない内容ではなかったと思います。特に口腔内から梅毒を診断することや、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス (HPV) による肛門癌などについても触れていただき、「たかがSTD」と軽く見がちなSTD診療について、日頃の診療現場での観察や診断の重要性について改めてお教えいただいたと思います。



エイズワーキング

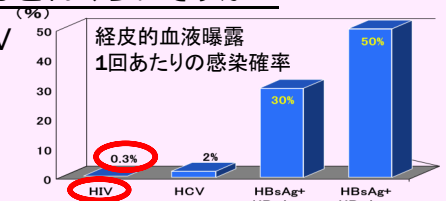


みなさん、こんにちは。
エイズワーキンググループです。

■今回は、9・10月の実践センター勉強会でアンケートに記入していただいた質問にお答えします■

Q1.血液からのHIV感染はどれくらいですか?

A. 1回の針刺しでのHIV感染確率は0.3%です。他のウイルスと同様**スタンダードプリコーション**で予防できます。



Q2.セクシュアリティについての問診はどこまで患者さんに聞いたらいいですか?

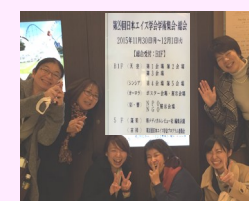
A. 性的指向やパートナーの有無、コンドームの使用など、**診療看護上必要な情報は全て聞きます。**

Q3.血友病患者が自己注射できない場合、訪問看護や近医で投与することで定期的補充療法は可能でしょうか?

A. 訪問看護は可能です。近医とも連携をとることで可能です。



■第29回日本エイズ学会学術集会へ行ってきました■



今回は「予防、予防、予防 そして予防」をテーマとし、東京で開催されました。当日は、小川さんが『エイズ診療拠点病院HIV担当看護師に対する支援の検討「HIV/AIDS看護体制に関する調査」結果から(その1)～患者ケア実施に関する現状と課題～』、城下さんが『HIV/AIDS不定期受診患者の傾向と効果的な受診継続支援の検討』を発表しました。